

# みえの樹木

## 伊勢路川河口のハマボウ

ハマボウは、三浦半島から西の暖かい地方の海岸や入り江の泥浜にはえる落葉低木です。このハマボウの大群落は、南勢町内瀬の伊勢路川河口にあります。この群落は、少なくとも紀伊半島では最大の群落で、学術的にも価値の高いものとなっています。



## 長太の大クス

伊勢平野の田んぼの中に雄大にそびえているこの大クスは、古くから地元の人々に神木として大切にされてきました。時には、伊勢湾からの潮風を浴びて葉が褐色に変わったり、冬季には、鈴鹿おろしの寒風にさらされ、葉が強風に揉まれています。



## 矢ノ川峠のトチノキ群

尾鷲から国道42号線を熊野方面に走り、矢ノ川トンネルを抜けるとすぐ古川の深い谷を渡ります。この谷の周辺の山地では、江戸時代から伐採が厳しく制限されてきたトチノキが約60本残されています。



## 矢頭の大スギ

一志町波瀬の神社境内には、樹高30mを超えるスギの大木が数本そそり立っています。その中でも最大のものが県の天然記念物に指定されていて、「矢頭の大スギ」と呼ばれています。

